

共同観賞によるコミュニティアーカイブ構築のためのプラットフォーム

Archiving Photographs of Community History by Group Viewing

川嶋稔夫

Toshio Kawashima

木村健一

Kenichi Kimura

公立はこだて未来大学

Future University Hakodate

Photo collection is a media appropriate for recording long history of a community. We have studied systems that assist citizens to weave archives of their community history from photo collection. In this report, we indicate group viewing is a very effective approach to organize a digital archive from a photo collection.

1. はじめに

都市の記録として、地域コミュニティのアーカイブが注目されている。これは、アーカイブを作る活動を通じて地域コミュニティの歴史が編纂されることに加え、アーカイブを作る行為自体が地域にとって創造的なりフレクシオンであるからだと考えられる。

このように市民自身が自らの手で、地域や組織のコミュニティアーカイブをつくることは、市民の表現活動を高度に編みあげるための重要なプロセスであるとみなしてよい。

我々はこれまで3年間にわたり、市民自身がコミュニティの記録写真からアーカイブをつくりだすプロセスを観察しながら、共同観賞によるアーカイブ構築の有効性と情報技術を用いた支援方式について検討を行ってきた [川嶋 2008][川嶋 2009]。

本研究では、これらの活動を振り返るとともに、市民活動の表現としてのアーカイブの役割について議論したい。

2. 編みあげを必要としている街の記録の現状

著者らの住む函館市は、幕末に写真技術が導入されて以来、昭和前半までの多くの写真記録が公的に収集されて市立図書館に残されており、歴史資料として多くの研究に利用されている。しかしながら、戦後の写真機の普及に伴って、資料としての写真資料が広報写真等に限定され始め、質的に薄いコレクションになってしまった。

一方で、市民の所有する私的な写真は膨大であり、都市の記録として価値のある事物や風俗を記録しているものが多く含まれ、潜在的価値は極めて大きい。

このような市民の所有する写真を、関係する人々の記憶を介して記録し、編纂し、市民の写真アーカイブを構築する手法の確立が急務である。

我々の基本的なアイデアは共同観賞をアーカイブ構築に役立てる方法の採用である。共同観賞は、アーカイブの対象となる素材をグループで観賞し、そのなかで起きる行為によって、対象に関する情報を収集し、整理しようとするものである。グループの構成法やツールを工夫することでアーカイブの付加情報を増やそうと考えた。

これまで行った実験は次の2種である。

1. 共同観賞による音声アノテーション取得 [永井 2009]

連絡先: 川嶋稔夫, 公立はこだて未来大学, 北海道函館市
 亀田中野町 116-2, 0138-34-6330, kawasima@fun.ac.jp

2. 共同観賞による写真アーカイブ編纂支援 [川嶋 2009]

通常は情報の受け手である観賞者が、観賞を通じて編纂作業に参加することが手法の特徴である。また、グループによる共同観賞を行うことで、観賞者のなかに話し手と聞き手が自発的に発生する点でも、編纂を促すことが予想される。

3. 写真アーカイブのための観賞ログと再利用

3.1 共同観賞のための閲覧システム

写真の共同観賞には、観賞支援と観賞記録を同時にでき、その操作性が観賞者の年齢やPC操作のスキルに関わらず容易であることが求められる。作成した共同観賞記録システム [永井 2009] の概要を図1に示す。

このシステムは表示制御用インタフェース上に置かれた写真カードを判別し、対応する画像をビューワに表示する。表示された画像は写真カードを表示制御用インタフェース上で動かすことによってスクロールさせることもできる。観賞時の操作や会話は自動でPCに保存されるため、観賞行為のみでそのログを保存することが可能である。記録された音声と同じ写真の観賞者に自動的に再現提示することもできる。

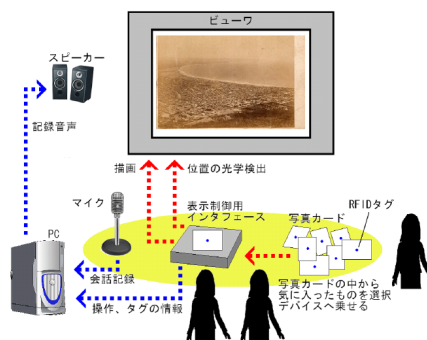


図1: 共同観賞ログを自動生成するためのシステム

我々はグループによる観賞が互いに話題を誘発するかどうかを検証するために、つぎのような状況を設定することにした。

実験1: 音声アノテーションの誘発

使用する写真アーカイブのテーマとなっているコミュニティの参加者を被験者の一部として参加させ、音声アノテーション

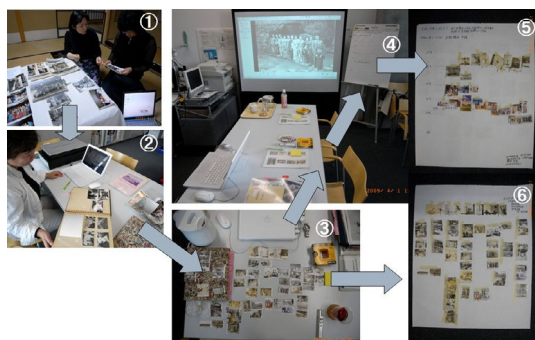


図 2: 写真アーカイブを編みあげる過程



図 3: 展示会における共同観賞

の取得や、その内容についての検証を行った。

実験 2: 音声アノテーションの再利用

実験 1 で得られた会話記録を他の観賞者に提示することによって、観賞に変化が見られるかの検証を行った。

実験 3: 語り手と聞き手による役割分担の効果

観賞グループを語り手と聞き手にわけ、実験 1 との差を検証するとともに、語り手が写真を選択する場合と、聞き手が選択する場合の、会話記録の変化を分析した。

3.2 発話からみた共同観賞の効果

実験 1 では、コミュニティメンバーと、非メンバーでコミュニティに関する知識を多少持つグループでの観賞から有益な音声アノテーションが得られた。実験 2 では、実験 1 で記録された音声アノテーションを観賞時に再生することで、他の鑑賞者の観賞時間が有意に延び、観賞を促進することがあきらかになった。実験 3 では、役割を分離する方が有益な音声アノテーションを得やすく、受け手が写真を選択する方が有効であることも分かった。

4. コミュニティ写真のアーカイブを編み上げる対話的方法

コミュニティには構成員が保存している数多くの写真があるが、多くは休眠している。これらの写真に着目し、デジタル化したうえで上映会を開催し、アーカイブ化を図る取り組みを実践した [川嶋 2009]。

また、写真をあらかじめ年表型に空間に配列して展示し、そのスペースのなかで移動しながら共同観賞することで記憶の再編集を促すことも試みた。

4.1 上映会形式の共同観賞による編み上げ

写真をデジタル化し、上映会による共同観賞を経て、写真アーカイブを編み上げるプロセスを図 3 に示す。この研究では、時刻のあいまいさを 4 層にわけ、タイムラインに写真を配置することで支援する手法を実験した。

4.2 写真展示会形式での共同観賞による記憶の再編集

表現活動を主とするコミュニティでは、表現者同士の切磋琢磨を促す展示会や集まりが開かれており、さまざまなエピソードが残されている。この記録写真の展示会を行った際に共同観賞を行ったところ、写真をみながらの対話がリフレクションを促進し、写真に新しい意味や解釈を付与し、さらにはコミュニティの記憶の再編集を促していることを観察できた。

つぎの 3 種類の展示方式を行った。

1. 年度ごとに作品写真と集合写真を大形縦長用紙に 40 年間分（平成 22 年度まで：40 枚）を作成。空間内の動線にそって、古い年度から最新までを並べて掲出。紙面の上部には、全国レベルの作品展の出品作、順次道レベル、市内レベル、支部内レベルの掲出順とした。紙面の下部では集合写真などの作品以外の写真を配置。
2. 壁面に前項目の展示 40 枚をレイアウトはそのままに A3 サイズに縮小し、一望性を重視して鑑賞できるようにした。
3. 展示室中央に、A3 サイズに印刷した、編集前の写真を一覧できるようにした。

共同鑑賞は展示 1 のみで生じた。展示 2, 3 においては、個別の鑑賞が行われ、長時間の黙読（黙って写真を眺める姿が見られた。

1 における共同鑑賞は、4, 5 人が写真を一緒に眺めながら、特定の写真に対する指差し行動を受けて、次々と発話が誘発される様子が観察された。共同鑑賞で発話が活発に行われたものは、再度の見直し、共同鑑賞後に行われる個別鑑賞においても、複数回の再アクセスが行われる様子が観察された。

これは 40 年間の歴史の中で、コミュニティ内で暗黙のうちに共有されている「時間上のランドマーク」を軸に、周辺の記憶が想起され、編集され解釈され、物語が確認されているものと推察される。

5. まとめ

市民が所有する写真を街の記録（写真アーカイブ）として編み上げるための函館での取り組みについて報告した。アーカイブは記録としての価値だけを取り上げられがちであるが、アーカイブプロセスはコミュニティの記録の編み上げと同時に、コミュニティにとって創造的行為になりうるだろうと考えている。

参考文献

- [川嶋 2008] 川嶋稔夫, 木村健一, 永井寿憲, 越谷千紘, 鑑賞によって編み上げるデジタルアーカイブ, 第 22 回人工知能学会, 2008
- [永井 2009] 永井寿憲, 川嶋稔夫, 写真アーカイブにおける共同観賞ログとその活用, 電子情報通信学会オフィス情報システム研究会, 2009
- [川嶋 2009] 川嶋稔夫, 木村健一, 街の記録を編み上げるデジタルアーカイブ, 第 23 回人工知能学会, 2009